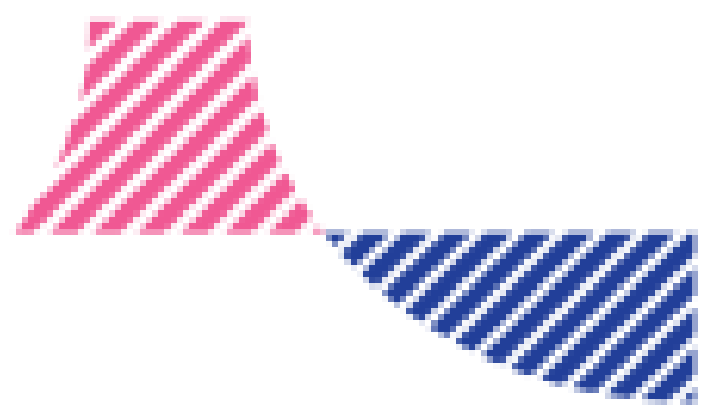
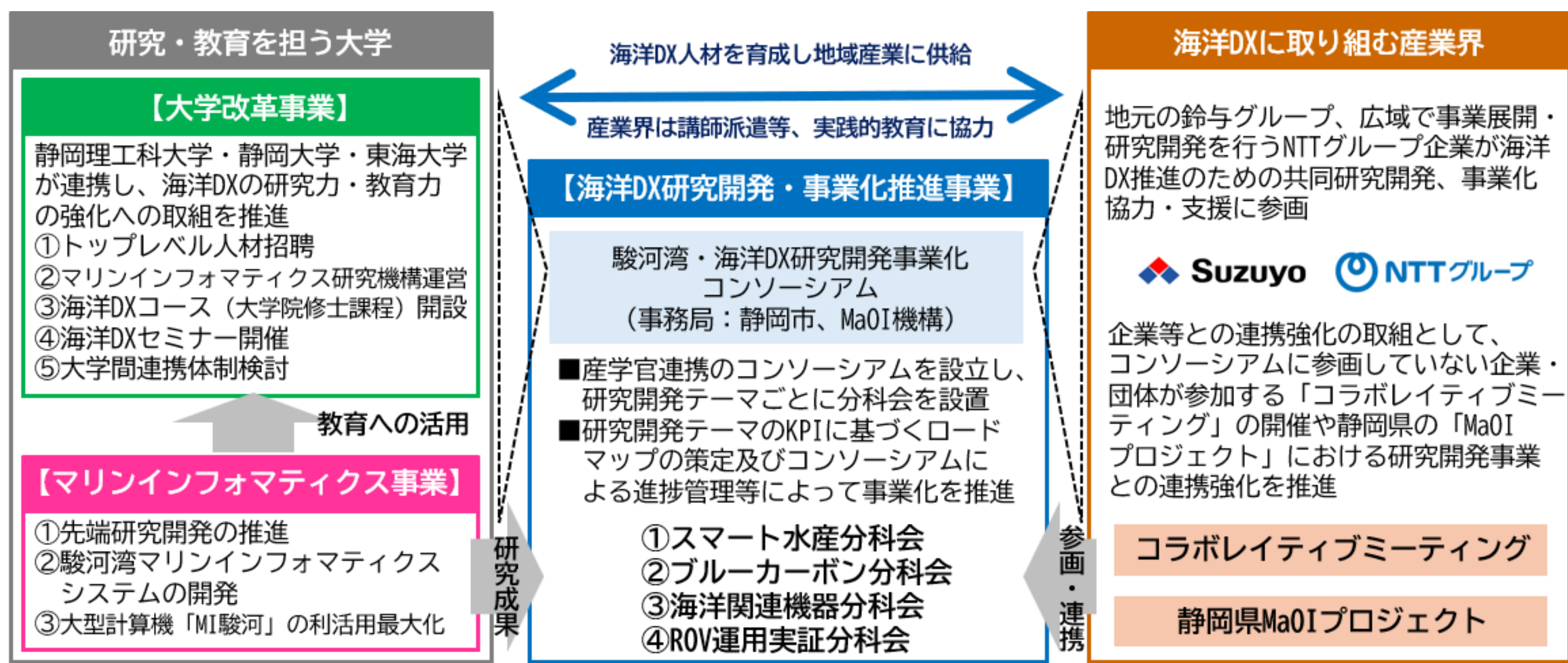




駿河湾海洋DXプロジェクト

駿河湾・海洋DX研究開発事業化コンソーシアム (海洋DX研究開発・事業化推進)

【1.取組概要】



地域の海洋関連産業の高度化・高付加価値化を図るため、産学官連携の「駿河湾・海洋DX研究開発事業化コンソーシアム」に「スマート水産」「ブルーカーボン」「海洋関連機器」「ROV運用実証」の4つの分科会を設置し、駿河湾の海洋環境を活かした共同研究開発を行い、事業化・社会実装を進めます。

また、コンソーシアムに参画していない企業・団体との情報交換やマッチングを行う場として「コラボレイティブミーティング」を開催し、事業化・社会実装に向けた連携強化の取組も進めています。

【2.取り組み内容】

スマート水産分科会

テーマ：■高精度生物・生態情報に基づくサクラエビ資源量把握技術の開発
■駿河湾関連データおよびIoT技術を用いたサクラエビ画像判定AIモデルの研究開発

駿河湾の象徴的な海産物であるサクラエビは、近年漁獲量が減少しており、資源保護を前提とした持続可能な漁業の実現が喫緊の課題です。「スマート水産分科会」では、ネット採集、計量魚探、環境DNA分析によってサクラエビの資源量や生態データを収集・分析し、シミュレーションによる漁場予測システムを構築します。また画像判定AI技術による体長、持卵個体を判定する漁業支援システムの構築を一体的に進め、水産業のスマート化に取り組めます。

ブルーカーボン分科会

テーマ：■静岡市清水区で養殖が可能な「紅藻アマノリ」種の選定およびその陸上養殖種苗システムの構築
■折戸湾でのフィールド実証を通じた新たな産業創出

地球温暖化対策や海洋生態系の保全への貢献から世界的に注目されるブルーカーボンは、国内でも積極的な取組が行われています。「ブルーカーボン分科会」では、駿河湾の環境分析や生育に適した藻類の調査、陸上における藻類種苗の培養及び養殖システムの構築を進めながら、藻場再生に取り組めます。また、養殖した藻類の商品化や水中可視化システムを搭載した水上ドローンによる藻場測定の研究開発、性能評価の手法確立に取り組めます。

海洋関連機器分科会

テーマ：海洋観測機器の高度化・知能化を目指した光学式海洋センシング・通信技術の開発

海洋関連産業の発展や環境保全に向けては、海洋観測技術の高度化・知能化が不可欠であり、海洋観測技術は様々な用途への貢献が期待されています。「海洋関連機器分科会」では、駿河湾の浅海から深海に至るまでの多様な海洋環境における生物動態や地形、海流の観測について、従来の音響技術等とは異なる光学式の観測技術の確立に取り組めます。さらに、光通信技術を応用し、収集したデータの送信やROV等の自己位置把握の研究開発に取り組めます。

ROV運用実証分科会

テーマ：海中非接触給電装置に関するフィージビリティスタディ

ROV等の研究開発においては、実海域における実証実験が不可欠となる一方、国内では、その環境が不足している状況にあります。「ROV運用実証分科会」では、駿河湾でのテストフィールドの整備を目指すと共に、ROV等の性能を評価する手法や基準を作るための研究開発に取り組めます。また、ROV等の航行機能高度化や自己位置把握などの研究開発に加えて、レーザーによる船底等の付着生物の除去可能性や海中での非接触給電技術の検証にも取り組めます。

【3.体制(参画機関一覧)】

